

図書館情報学関係団体
Organizations Concerned with Library and Information Science

堀 内 郁 子

Ikuko Horiuchi

Résumé

The 1970's are called a decade of information science and technology. Since librarians handle information contained in books and other library materials, they should keep up with the progress of these days. But individual librarians and information officers have so many different opinions and attitudes toward information science and technology that we feel lost. With the hope of getting some suggestions about how and where to proceed in these rapidly changing days, the author tries to examine the objectives and activities of ASLIB, SLA, ASIS and FID, the representative organizations to which individual librarians and information officers gather together to improve their skills and theories and the profession at large.

序

- I. ASLIB
- II. SLA
- III. ASIS
- IV. FID
- V. その他の団体

結 語

序

我々は現在情報の洪水の中に生き、1970年代は情報の社会であり、1970年9月にはコンピュータと通信回線を結合した加入データ通信サービスが発足し、「情報元年」といわれる。図書館員は図書館にあって本、雑誌等の図書館資料の収集、整理、提供にあたっている

が、図書館資料の提供とは資料の中に含まれている情報を提供することであるとすれば、図書館員は情報を扱うことを仕事とする専門家で、情報の社会における中心的存在であると断言したいところであるが、世間一般の図書館員のイメージはあいかわらず地味で片隅の存在である。世間の思惑はさておき、情報の時代といわれる今日、図書館員は何をなすべきか、図書館とは何か、情報学と

堀内郁子：慶応義塾大学文学部図書館・情報学科事務主任兼主任司書。

Ikuko Horiuchi, Executive Secretary and Librarian, School of Library and Information Science, Keio University.

は何か、その両者はどのようにかわりあっているのか等をしっかりと摺んで、確固たる歩調をもって日々の仕事に従事してゆきたいと願う。図書館学については一時代前に図書館学は学問としてなりたつのか、単なる技術であるのかというような論議が行なわれたが、今ではその点についてはあまり論争されず、あらたに起った情報学について色々な意見が出ている。米国の情報学の動向を年毎に総括しているレビュー誌 *Annual Review of Information Science and Technology* によっても第1巻の序文で編者の Cuadra は「情報過程にたずさわる人々の経歴の多様さから、情報学の範囲、限界、その母体となるもの、基本的性格、その将来については、各人で一致する部分が非常に少ない¹⁾」と述べ、同じ *Review* の第2巻では、情報学の定義づけをあせらないで、多くの人々の努力で次第にかたまってくるのを待つ方がよいという意見が紹介されている。²⁾ 日本でも情報学について論じた本はたくさんあり、最近では北川敏男氏の「情報学の視座」という本が出たが、この本では図書館学については、情報学が関連をもつ一分野であるとして、数学、論理学、言語学等と一緒に言及されているのみである。約50年前社会学という学問分野が今日のような形をとるまでにやはり混とんたる過程をたどったといわれている例を見ても、情報学のかたまるにはもう少し日時を要するように思われる。そこで図書館・情報学とは何ぞやという理論を追求することはしばらくおいて、現実の活動の中から図書館・情報学の発展に寄与した力を探し出して、我々の進むべき方向を見出す参考にしたいと考える。個々の図書館員や情報担当者の意見は様々であり、個々の図書館や情報センター等の活動は千差万別であるとしても、それらの人々や機関が集って作っている団体にはおのずから一定の目標があり、活動方針があるので、図書館学と情報学をひっくるめて一体のものと考えた時それと最も密接な関係にある二、三の団体のあり方を探ってみることとする。

I. ASLIB

ASLIB は Association of Special Libraries and Information Bureau という名称で 1924 年英国で創立された。第一次世界大戦終了後冶金業界ではこの分野の技術文献を組織的に探索する必要にせまられ、冶金学関係学会の人々が相互に協力することについて意見交換の機会を作るために Hertfordshire の Hoddesdon に

いて会議を開き、新しい学会を作ることを決定した結果生れたもので、その目的は「社会諸般の出来事、商工業、すべての技術、科学に関する知識と情報を組織的に利用することを促進する」ことであった。

創立以来初期の段階では活発な活動を行ない、1928年には *Aslib directory, a guide to sources of specialized information in Great Britain and Ireland* を編さんし、Central Library for Students を現在の National Central Library に発展させることに貢献した。1949年には British Society for International Bibliography と合併して現在の Aslib の名称にかえた。

会員と組織

Aslib の会員は団体会員と個人会員とからなり 1940 年には 300、1950 年 1,000、1966 年 2,800 と漸増した。会員の 80% は英国の会員であるが、ほとんど世界中の国々に会員がいる。英国以外の会員では米国とカナダに 180 ある。英国会員を分析すると、商工業関係団体 35%、公共図書館および国立図書館 11%、政府機関 9%、大学 14%、その他の非営利団体 15%、残り 16% は個人会員である。

Aslib の最高機関は Council (評議員会) で主として英国の会員の中から選挙された者で構成されている。評議員会で決定された方針は理事長の責任において執行される。決定される事項は会議、専門職員の教育、国際関係、出版、情報活動および関連分野の研究等にわたる。

Aslib の支部はスコットランドとイングランド北部、中部の3支部がある。また専門主題を追求するグループがあり、1970 年現在、航空、視聴覚、生物学、化学、電子計算機利用、コーディネート索引、経済、電子工学、工学、社会科学、技術関係の翻訳、織物、交通の14のグループがある。

会員に対するサービスと活動

Aslib は英国における専門図書館活動の集中点として、会員である機関相互の協力により、個々の会員では入手できない情報を提供し、共同の活動として集会や会議を開催する。主な活動を列挙すると次の通りである。

質問サービス。会員が技術的な問題、経済問題その他の問題を質問すると、Aslib は直接解答は与えないけれども、解答を含む出版物を示したり、情報源を紹介したりする。

図書館。専門図書館関係および情報学関係雑誌は約 300 種あり、その他の資料の中には英国ではこの図書館にしかないという貴重な資料も多い。会員は無料で借り

ることができる。

相談。会社等の機関で機関内に図書室とか情報部局を新設したり、すでにあるものを改組しようとするような時、Aslib に勧告を依頼したり顧問となってもらえることができる。

出版物

現在逐次刊行物としては次の4種類出版されている。

Journal of Documentation 季刊。情報の記録、組織、伝達等に関する技術にかかわる学術的に程度の高い論文を収録している。

Aslib Proceedings 月刊。Aslib の集会、会議で行なわれた報告、発表論文、活動に関する記事等を載せる。

Aslib Book-List 月刊。英語で書かれた科学、技術関係推薦図書の分類別リストで簡単な解題がついている。

Index to Theses 年刊。英国とアイルランドの大学の学位論文の分類別リスト。

単行本としては *Handbook of special librarianship and information work* や *Aslib directory* 等情報担当者に有用な出版物が出ている。

教育

Aslib は司書資格、情報官の資格というようなものの附与は行なわず、また長期の教育は行なっていない。しかし初心者のための短期講習とか、上級の人々に特定分野の集中講習を行なう。例えばロシア語文献の収集と利用、特許資料の取扱い、高度の分類法等である。

相互貸借

機関会員は直接または Aslib を通して相互貸借を行なう。

翻訳索引

外国の科学技術論文を多くの機関で翻訳しているが、そのうち出版されていないものを記録しておいて、二重に翻訳する無駄を省くためのチェックリストを作っている。約15万件の論文を記録し年々8000件くらいつけ加えられる。

翻訳者名簿

語学力および科学技術の専門知識をもったパートタイムの翻訳者が約250名登録されていて、会員は主題ならびに言語の種類に応じて適当な翻訳者を紹介してもらうことができる。

索引者名簿

各専門主題の索引者の名簿もできている。人数は少なく、いずれもパートタイマーであるが、登録されている人は主題知識と索引の実務の経験を兼ね備えている。

就職斡旋

専門図書館や情報部門に職を求めている人びとには Aslib に登録することをすすめ、適当な求人があり次第紹介する。

複写サービス

出版された資料を購入することができない場合、その資料をもっている図書館を教え、著作権の問題が解決すれば、その資料のマイクロフィルムまたはハードコピーを供給するサービスも行なう。英国内にない場合は諸外国のセンターへ交換を申し込んで入手する。

会議と集会

年1回の大会や、各種の集会を開催し、会員が集って論文を発表したり討議したりする機会を作る。各種専門主題に関する会合も随時開かれ、支部やグループの会議も開かれる。どの会合も内容の充実したものが多く、発表論文や討議の様子は Aslib Proceedings に掲載される。

研究活動

研究部は政府の Department of Scientific and Industrial Research (科学工業研究省) より財政的援助を得て1959年に創設され、研究委員会の承認を得たプログラムに従って、同省の同意を得て調査研究を行なう。研究テーマは広い範囲に及ぶが、専門図書館、情報サービスの場面で起る問題、特に情報の発生から利用までの流れの中で、その流れをはばむものの研究が行なわれている。すでに終了し報告されているもののうちいくつかの例を挙げると次のようなものがある。

Survey of information/library units in industrial and commercial organizations.

Foreign language barrier in science and technology.

Does your firm need its own information service?—an investigation carried out under contract for O. E. C. D.

Literature searching by research scientists.

Technical libraries: users and their demands.

最近の研究では図書館業務の機械化の問題に力を入れている。

研究部ができる以前から Aslib/Cranfield Project として索引システムの効率の比較研究に関する研究計画が継続して行なわれ、このプロジェクトの研究成果としては次のようなものがある。

Aslib Cranfield research project; report on the

first stage of an investigation into the comparative efficiency of indexing systems. 1960.
Report on the testing and analysis of an investigation into comparative efficiency of indexing systems. 1962.
Factors determining the performance of indexing systems. 1968.
The effect of variations in relevance assessments in comparative experimental tests of index language. 1970.

他団体との協力

Aslib は英国の内外で多くの団体と緊密な関係を結び、International Federation for Documentation には英国代表の会員として参加しており、International Federation of Library Association, International Standards Organization, Unesco 等の活動には深い関心をもってともに歩んでいる。国内では British Standards Institution, British National Bibliography, National Central Library, Committee of Directors of Research Associations, National Lending Library for Science and Technology, National Reference Library of Science and Invention, National Book League 等の団体に代表を送っている。したがって、Aslib は人類の蓄積された知識の効果的利用に関するあらゆる面で影響力をもつ団体であるといえる。

II. S L A

英国の ASLIB に対応する米国の団体としては SLA (Special Libraries Association) をあげることができる。S L Aはその名の通り米国の専門図書館協議会で、歴史は ASLIB よりも古く、1909 年の American Library Association の大会において Newark 公共図書館の館長 John Cotton Dana を中心とする 26 人の図書館員によって結成され、Dana が初代の会長となった。当時図書館は学術的で古風で浮世離れのした存在であったが、どんどん発展する商工業界の要人達は印刷資料の重要性を認識し、専門図書館という新しいタイプの図書館を発展せしめた。Dana は Newark 公共図書館に商工業対象の分館を作り、また S L Aを A L Aの組織の一部とするよう努力したが、A L Aに受け入れられずいたく失望した³⁾。

S L Aは創立と同時に活発な出版活動を開始し、機関誌 Special Libraries を創刊し、索引類を作成する計画をたて後に Public Affairs Information Service, Industrial Arts Index, New York Times Index という形をとって結実した。

第二次大戦までは専門図書館は主として社会科学方面、すなわち経済、金融、政治関係分野で活発であったが、戦後科学、技術が重要視されると、工業、軍事方面の技師、科学者、研究者を対象とする専門図書館が急増した。1970年代に入った現在、S L Aは国際的な団体として 7000 人の会員を擁し⁴⁾、それらは研究機関、銀行、製造業、通信報道、広告業、金融、保険、政府機関、病院、運輸、博物館・美術館、商業等の方面の図書館、情報センターの専門職員として活躍している。

S L A の目的は、「情報の収集、組織、伝達を通して知識を活用することを奨励発展させる；専門図書館または情報センターの有用性と能率を高める；情報サービスの分野の研究を奨励する；専門職の基準を高めてゆく；会員相互の連絡をよくする；関連団体と協力する」ことにある。これらの目的を端的にいえば“Putting knowledge to work”（知識を生かして使う）という協会のスローガンであられる。

組織。協会の方針や活動の内容は、選挙された12人の理事からなる理事会で決定する。支部長、部会長、委員会長によって構成する顧問会議 (Advisory Council) は会員の意見を理事会の決定に反映させ、理事会を助ける。委員会は協会長によって任命され、協会全体としての方針や活動方針について進言する。教育、出版、P R、専門職の基準、賞、翻訳等にかかわる50以上の委員会が設置されているが、近頃ではその数がふえすぎて、分担任務がかさなりあったり、関係が複雑になりすぎているので、委員会に関する委員会をつくって全委員会を再検討し、統合、合併をはかっている。

支部。協会は全米とカナダを地理的に37に区分して37支部を設け、全会員は自動的にその居住する地域または勤務している地域の支部に所属する。各支部はそれぞれ役員を選出し、機関誌やニュースレターを発行し、会合を開く。その他独自の計画をたてて活動する。たとえば、地域内でとっている雑誌の総合目録を作ったり、研究集会を開いたりする。支部活動についての近頃の問題の1つは、専門図書館員の仕事量がふえて職員数はへっているのに、協会の活動に時間をさくことがむづかしくなっていることである。

協会は更に主題分野または図書館の種類によって23の部会を組織している。主題別部会としては、広告、宇宙科学、生物学、商業・金融、ドキュメンテーション等、館種別としては軍図書館、博物館等がある。各部会はそれぞれ役員を選出し、部会報を発行し、大会の期間中にはそれぞれ専門部会を開いて活動する。

協会の年次大会は毎年初夏に行なわれ、総会、事業計画会議、専門部会、優秀な専門図書館、情報センターの見学、大規模な展示会等が開かれる。

活動。協会の諸活動は各種委員会とその専門職員によって行なわれる。

相談。専門図書館や情報サービスの新設、拡張、模様がえ、運営等について無料で相談にのり、助言する。

就職斡旋。協会の就職サービスと支部の雇傭担当者は、人を求めている企業や機関に適当な有資格者を紹介し、仕事を求めている会員には職を斡旋する。このサービスは協会に求人の方針依頼を登録してある機関と会員に対しては無料である。

特殊主題分類センター。専門主題を扱う図書館や専門分野のコレクションをもっている所で資料を組織するための助けとなるように、オハイオ州クリーブランドの Case Western Reserve University の図書館学校内に特殊分類センター (Special Classification Center) を設けてある。各種の分類表、件名標目表、セソーラス、索引等1500点以上集めてあり、それらを借り出したり複写コピーを作ってもらうことができる。これらの資料をリストし簡単な説明をつけたものが、*Selected materials in classification: A bibliography, compiled by Barbara Denison, 1968* として出版されている。

翻訳センター。科学・技術、工学、医学等の分野の外国および国内の翻訳で出版されていないものについて、収集、保管、利用に供するサービスを行なう。1959年からは、連邦科学技術情報交換所 (Clearinghouse for Federal Scientific and Technical Information) との共同運営となり、毎年1万件程の翻訳を集め、これらを索引して *Translations Register-Index* として半月刊で出版している。このセンターは政府と財団の補助金によって維持され、事務所はシカゴの John Crerar Library においてあり、翻訳の注文や投稿はここへ申し込む。

出版活動

協会発行の定期刊行物は次の4種である。

Special Libraries 年10回発行。協会の機関誌で、論文、報告、ニュース、新刊書の書評等を載せる。

Scientific Meetings 年3回発行。科学、技術、工学、医学、経営・管理に関する国内および国際会議、コロキウム、シンポジウムその他の会合予定をアルファベット順、日付順にリストしてある。

Technical Book Review Index 年10回発行。2500種余の雑誌にあらわれた科学技術関係図書の書評を集めてある。

Translations Register-Index

教育活動

協会は公認された大学院課程の図書館学校で専門図書館学または情報学を学ぶ人のための奨学金を設けている。1970/71年度には3口の奨学金があり、これに対して500人からの照会があり⁵⁾、米国社会の経済的困難の一端を示している。

他団体との協力

協会長の任命する約40名の協会代表が関係諸団体に送られている。それらの団体の例をあげれば次の如くである。American Association for the Advancement of Science, American Standards Association, International Federation of Library Associations, Council of National Library Associations, Congress for International Progress in Management.

以上でSLAの概要を述べたが、SLAは歴史も古く、米国内外の専門図書館の分野で真に指導的な役割を果し、充実した活動を行なっている。ごく最近の傾向としては、専門図書館全般としても協会自身としても財政難と人手不足が目立ち、協会のための活発な活動を行なうことの困難が訴えられている。また次章に述べる ASIS との合併の問題も起っているが、情報学と専門図書館との関係、それぞれの概念規定において意見の一致を見ず、簡単には結論が出ない模様である⁶⁾。

III. ASIS

ASIS (American Society for Information Science) は米国ドキュメンテーション協会の発展したもので、1968年までは ADI (American Documentation Institute) と称し、創立は1937年である。米国農務省の Science Service と Biblofilm Service とがドキュメンテーションに力を入れており、そこへ化学財団が科学文献の書誌作りやマイクロ写真技術の発展のために寄附金を出したのでドキュメンテーション協会を設立することができるはこびとなった。最初68の加盟団体で発足し、活

発な活動を開始した。マイクロ写真を読む機械を開発するための研究を行ない、珍しい雑誌をマイクロフィルムにおさめて保存することをはじめ、第二次大戦中は入手困難なアジアの科学雑誌の提供を行なったりもした。1947年には FID と関係を保つようになり、1950年には季刊の雑誌 *American Documentation* を創刊してドキュメンテーションに関する論文発表、情報交換の場を作った。1952年には協会の規約を改正して個人も会員になれるようにし、ドキュメンテーションに関心をもつ人々のための全国的専門機関となった。1950年代のパンチカードシステムの発達や電子計算機の発達につれて、文献探索の機械化や索引作業の機械化の可能性が追求されるようになり、会員は次第にふえて、1959年から1967年までの8年間に約4倍となり、2,200会員をかぞえた。その内訳は個人会員85%、学生会員13%、機関会員2%である。会員は色々な活動に従事する人々を含み、たとえば、マイクロ写真、自動索引、文献探索のためのオンラインシステムの設計、図書館・情報システム分析、情報センターの経営、基礎科学および応用科学の情報要求および利用の研究、計算機言語、インフォメーションネットワークの設計、専門分野の分類および索引システムの開発等がある。会員のたずさわっている仕事は色々であるが、共通の焦点は情報伝達の全プロセスの中に集っている。

目的

この会の目的は、会員の種々な能力や知識を情報伝達の環の問題に集中するような状況を作り出すことにある。この過程は情報の発生からその利用によって更に新しい情報を創り出すまでのサイクルであるとみなされる。このサイクルの中には情報の編集、出版、組織、探索、伝達、利用の問題が含まれる。これらの過程には多様な専門的技術や資財や、それぞれの中間的目標もある複雑な過程であるから、ASISの関心は多くの学問分野にまたがる研究、開発、実践にある。この会の最も基本的な目的は、情報伝達に関する種々の問題ととりくんで、基礎研究と現場の作業システムとの橋渡しをすることである。

この目的を達成するために ASIS は研究開発に関する編集、出版、出版物の配布を行ない、年次会議や討論会、シンポジウム、支部会議、専門主題の会合等を開き、情報学の研究開発プロジェクトを行なったり、指揮監督する。

専門グループと支部

特別の主題について討議したり研究したりするグループとして1970年現在次の12のグループがある。芸術・人文科学、情報科学教育、分類研究、図書館の機械化とネットワーク、情報分析センター、機械言語処理、複写技術、生医学および化学情報システム、行動科学と社会科学、SDI（選択的情報提供）、原価・予算・経済、非印刷媒体。

ASIS は全国各地に13の支部があり、各地域毎にフォーラムを開いて地域の会員の意見の交換を行なっている。また、コロンビア大学、首都ワシントン地域の大学群、ウェスタンリザーブ大学等に7つの学生支部があり、教員の指導のもとにフォーラムや討論会を開いている。

組織。役員は、会長、次期会長当選者、会計、書記長の4人からなり、これら役員と前会長、4名以内の参与、各専門部会の代表と各支部長によって協会は運営されている。首都ワシントンに事務局をおく。

活動とサービス

前述の協会の目的を達成するために多面的な活動を行なっている。

出版活動。最近の研究・開発の報告、活動報告等を会員や関心ある人々に伝達するチャンネルとして出版されているもののおもなものをあげれば次の通りである。

Journal of the American Society for Information Science 隔月刊。1950年に季刊 *American Documentation* として創刊され、研究論文や報告を収録し、米国の図書館・情報学関係雑誌としては最も重要なものである。協会自身の名称の変更により、この雑誌の誌名も1970年より現在のものとなり、発刊頻度もふやされた。

ASIS Newsletter 隔月刊。会員には無料で配布され、協会の公式の活動、支部や専門部会の計画、政策の討議等が載せられている。

Handbook and Directory 年刊。会員名簿で住所、略歴、所属する支部、専門部会、役員等を含む。

Information Abstracts 隔月刊。*Documentation Abstracts* を改題したもので1966年創刊。ドキュメンテーションとその関連分野の文献をできるだけ網羅的に集めて抄録してある。

Annual Review of Information Science and Technology 年刊。情報の科学・技術の最新の動向を1年毎に集大成したもので、1966年の創刊。情報科学・技術の調査研究のためには不可欠のツールである。

年次会議の議事録。年次大会によせられた論文のうち主

要なものを集めて刊行している。この議事録は会議のスケジュールにあわせて、会議の前に入手できるようにし、会議における討論を充実させるよう努力が払われている。1963年に出版された要録 *Automation and Scientific Communication* は電子計算機設備により機械的に印刷された最初のものであるといわれる。1964年度の議事録は *Parameters of Information Science* という題であるが、これを議事録の第1巻とかぞえ、現在第7巻まで出ている。

大会とは別にしばしば特定の主題についてのシンポジウムが開催され、その要旨が出版される。たとえば1965年にバージニア州のワレントンで開かれたシンポジウムの要録は、*Education for Information Science* という題で刊行されたが、これは情報科学教育の問題が論ぜられる場合必ず引用される文献の一つであるが、絶版になっている。

以上のほか単行本としては *H. P. Luhn: Pioneer of Information Science* があり、これは情報科学の先覚者ルーンの著作、伝記その他を集めたものである。

補助出版物サービス (Auxiliary Publications Service) これは論文の基礎となる膨大なデータの出版の問題を解決するためのサービスで、1937年に創められたもっとも古いサービスである。雑誌編集者はしばしば、基礎データの量があまり多いため論文そのものの掲載をことわらねばならない場合があるので、データの方は Auxiliary Publications Service に委託しておき、発表した論文にはデータソースを示しておいて、関心をもった読者には必要に応じてデータを参照してもらうという仕組みである。現在では約100種の雑誌や協会がこのサービスを利用してデータを預けている。現在このサービスは議会図書館の複写サービス部で行なわれ、要求があればマイクロフィルムまたはハードコピーを提供する。

集会

年次大会やシンポジウムは、色々な方面に関心をもつ多くの人々にコミュニケーションのチャンネルを開き、集会のもち方の実験場ともなっている。たとえばニューヨーク州の支部は地域が広く会員は遠く各地にちらばっているので、テレコミュニケーションネットワークを使った独自の会議を開き、おもな発言者はカナダのトロントに集ったが、聴衆はニューヨーク州各地にいて発言をきき、ツーウェイコミュニケーション設備により、会議中にその場から質問することができるような試みを行なった。

就職斡旋サービス

大学の新卒業生や正会員の就職の斡旋を行ない、年次大会期間中は会場に斡旋事務所を特設する。

他団体との協力

American Federation of Information Processing Societies の会員となっており、1967年現在で18の国内および外国の団体と関係をもち、American Standard Institute に代表を送っている。

IV. F I D

FID (International Federation for Documentation = Federation Internationale de Documentation) は非営利的な民間団体で、その前身である Institut International de Bibliographic (IIB) はベルギーの首都ブリッセルの法律家 Henri LaFontaine と Paul Otlet によって1895年9月2日に創立された。2人はともに国際主義者で、知識の統合と科学の総合を求めるエンサイクロペディストであった。彼等は包括的な世界書誌をカード形式で作りたいと考えた。この全世界的収集には、書誌的データを主題によって分類するための標準的分類体系が必要であると考え、また、カードの大きさも一定にすべきであると考えた。標準的分類体系を作るため Dewey の十進分類表をもとにしてその科学の分野を展開し、更に分類理論に従って従来の平面的分類にとどまらず多次元的な分類手法を取り入れて Classification Décimale Universelle (UDC) を作った。UDC は世界で最初の多次元的分類表であると同時に、はじめて分類記号の中にコロロン (:) を使ったので最初のコロロン分類法であるともいえる。初版は *Manuel du Répertoire Bibliographique Universelle* として1905年に出版された。

第一次世界大戦後、主として経済的な困難により14,000,000枚におよぶ世界書誌のカード目録の作成を中止した。しかし1928年から1959年まで FID の書記長を勤めたオランダの Frits Donker Duyvis の指導により UDC の改訂、展開等の努力は続けられ、数か国語による国際十進分類表ができた。その上 UDC の変更、展開等に関する各国の委員会の国際的ネットワークが作られた。1924年には Duyvis の提案により、FID の規則をかえてこれまで個人の集りであったものを団体の連合体とし、1932年より International Federation for Documentation と現在の名称をとなえるようになった。

目的

現在 FID が目標とするところは、国際協力によって

ドキュメンテーションの発展を促進することであり、具体的な目的として掲げているものは次の通りである。

- 1) ドキュメンテーションの問題に関心をもっている団体と個人を国際的に組織し、彼等の努力を調整する。
- 2) ドキュメンテーションのあらゆる面での研究、組織、実行を促進し、国際的ネットワークをつくる。
- 3) 会員である団体の活動の指針をつくる。
- 4) 会員である団体の活動に適切な情報の交換を行なう。
- 5) ドキュメンテーションに関する国際会議その他の会合を開く。
- 6) ドキュメンテーションに関する逐次刊行物その他の刊行物の出版、販売、配布を行なう。
- 7) 関連分野の国際団体と協力する。
- 8) ドキュメンタリストの教育およびドキュメンタリストという職業についての問題の研究。
- 9) 上に述べたような目的を達成するための法的措置、その他の措置をとる。

会員

会員には正会員と準会員の2種あり、正会員は国を代表する団体または専門分野を代表する団体である。準会員は FID の目的に賛成する団体または個人で推薦されたものと国際団体とがある。

正会員はヨーロッパにベルギー、ブルガリア、チェコスロバキア等、21、南北アメリカ大陸にはアルゼンチン、ボリビア、ブラジル等11、アジア・オセシアにはオーストラリア、韓国、インド、日本等10、アフリカにはモロッコ、ニゲリア等5、で、総計47会員である。準会員は5ある。

組織・機構

総会 (General Assembly) が FID の最高機関で、国を代表する正会員と準会員とによって構成し、少くとも2年に1度は総会を開き各会員が1票ずつの投票権をもつ。総会は評議員 (Councillor) を選出し、活動方針や計画をつくり、各種委員会を任命したり解散したりする。

評議員会 (Council) は、議長、副議長2名、会計、ベルギーの会員、その他の評議員からなり12名以内の評議員で構成する。少なくとも年1回の評議員会を開く。

執行委員会 (Executive Committee) は評議員会で決定した事項を執行する。評議員議長と2人の副議長と会計との4人で構成する。

各種委員会。ドキュメンテーションの特定の分野をカバーするために各種の委員会が設けられている。そのお

もなものをあげれば次の通りである。

Central Classification Committee (FID/CCC) 1924年設立、1960年と65年に改組。UDC に関する最高の権威をもつ機関で、各国語の UDC の編集者とその他の委員とからなる。分類体系の中の主な分野、たとえば、哲学・宗教、社会科学、数学、物理、化学等をカバーする小委員会が30ちかく設置されている。

Research on the Theoretical Basis of Information (FID/RI) 1965年設立。

Classification Research (FID/CR) 1946年設立、1962年改組。分類の基礎をなす理論を研究する。

Theory of Machine Techniques and Systems (FID/TM) 1952年設立、1961年および1966年改組。

Operational Machine Techniques and Systems (FID/OM) 1952年設立、1961年と66年に改組。

Linguistics in Documentation (FID/LD) 1960年設立、1967年改組。

Information for Industry (FID/II) 1959年設立、1967年改組。

Education and Training (FID/ET) 1953年 FID/TD として設立、1959年改組、1971年改称。

Developing Countries (FID/DC) 1966年設置。

会議。FID の総会は通常2年に1回開催され、総会と同時に評議員会、各種委員会、その他の FID の機関の会合等が開かれる。これらを総称して FID Conference と呼ぶ。最近の会議は、1964年オランダのヘーグ、1965年米国ワシントン、1966年ヘーグ、1967年東京、1968年ヘーグ、(1969年は開催されず) 1970年南米ブエノスアイレスでそれぞれ開催された。

すべての会議の概要報告は機関誌 FID News Bulletin に発表されるが、年度によっては詳しい議事録が出版されることもある。

出版物

FID 刊行の逐次刊行物としては

FID News Bulletin, 1951- 月刊

FID Yearbook

がある。季刊で *Revue Internationale de la Documentation* が出版されていたが、1965年で中止された。その他の出版物については、*FID Publications Catalogue* が毎年出るのでこれを参照すればよいが、最も重要なものは国際十進分類表の各版およびガイドなどの UDC に関するものであろう。その他には会議の議事録、情報科学、ドキュメンテーション文献、複製、機械化、標準化、

教育、ディレクトリー、抄録、索引、専門書誌、分類研究等の分野の出版物があり、FID はドキュメンテーション関係出版物の重要な出版者の1つである。

V. その他の団体

以上 ASLIB, SLA, ASIS, FID と4つの団体について、その概略を見て来たが、これらの他に我が国に密接な関係をもつ図書館協会としては、米国の ALA (American Library Association)、英国の LA (Library Association) があり、これら図書館協会の連合体として IFLA (International Federation of Library Associations) がある。このうち、ALA は近頃の科学技術の発達にもっとも敏感に反応し、各タイプ別図書館の部会や、仕事の分野別のほかに Information Science and Automation Division (ISAD) を1966年に創設した。これは電子計算機によるデータ処理や図書館業務の機械化に関する部会で、この分野での研究や基準を作ることに努力し、フォーラム・討論会等を開き、1968年からは機関誌 *Journal of Library Automation* (季刊) を創刊した。ALA 全体の組織、機構、行事等については *ALA Organizational information, 1970-1971* に詳しい。

LA の全貌を知るためのまとまった文献はないが、同協会50周年記念会議の要録や、Yearbook, E. A. Savage の *A librarian's memories* 等を見ればその歴史や活動がわかる。

IFLA については「IFLA の組織とその活動」という本が日本図書館協会から発行されている。

情報学に関係のある組織としては、IFIP (International Federation of Information Processing)、ICSU (International Council of Scientific Unions)、UNISIST (World Science Information System)、ACM (Association for Computing Machinery) (米国) 等がある。

IFIP (国際情報処理連盟) の目的は、数学的、工学的側面も含めた情報処理に関する国際会議を開催し、国際委員会を設け、情報処理の分野での国際協力を推進することにある。部厚い会議の要録が発行されている。ICSU (国際学術連合会議) は UNESCO との共同事業として UNISIST (世界科学情報システム) を結成し、世界的に科学技術の全分野にわたるネットワーク作成の計画を

推進することを目指している。

結 語

以上のように見てくると、我々図書館員とか情報担当者というものは1人1人の個人としてできることは極めて小さく無力で、しかも要求されていることは巨大なので、組織を作って協力し、個々の組織は更につながりあってネットワークを作り、世界的な規模で情報に関する網の目をはるという方向に進み全世界が密接につながって来た。このような情勢の中で我々がもっていなければならない知識は、語学、数学、電子計算機、通信工学等々広い分野にわたり、語学1つをとっていても孤立した1人の人間としてはその無力さに絶望的になるが、上述の諸団体が行なっている翻訳サービス等を見ても、組織の中の1員として仲間と共に活動してゆけば問題解決の道は開けてゆくように思われる。広い視野に立つと同時に足もとを見つめて地道な活動を続けてゆきたいと思う。

- 1) *Annual review of information science and technology*, vol. 1, 1966, p. 1.
- 2) *Ibid.*, vol. 2, 1967, p. 421.
- 3) Hadley, Chalmers. *John Cotton Dana; a sketch*. Chicago, ALA, 1943. p. 88.
- 4) Ginader, George H. "Report of the executive director, 1967/70," *Special libraries*, vol. 61, Jul./Aug. 1970, p. 299.
- 5) *Ibid.*
- 6) "SLA/ASIS merger discussions," *Special libraries*, vol. 61, Jul./Aug. 1970, p. 309-310.
"ASIS/SLA merger proposal; discussion of proposed implementation plan," *Special libraries*, vol. 61, Mar. 1970, p. 133-135.

参 考 文 献

- Encyclopedia of library and information science*.
New York, Dekker, 1968-
International Federation for Documentation. *FID yearbook*, 1970. The Hague, 1970.
Landau, Thomas. *Encyclopaedia of librarianship*.
3d rev. ed. London, Bowes & Bowes, 1966.